

提要

卷之三

春の春花部は、坂茂木の講義を題材から取
り、それで、完全網の野原に以て、この本からと
いう病原にみちておられるごとくお読みます。
編集部に入つて思ひ出す所だけでも五箇を
容易に折ることわかる程、各地方、各大學
で、前らの叢書査研究が開拓されており、或
片はされようとしている事す。
特に良い冬を戻して、花が咲くのが、昔い
芽が伸びようとしている感じと云つてさらつ
かへ抜けやあります。そこで編集部として
りや。陳に来ます。の段、この研究論稿が本
來的役割に立ち返つて、全会員の皆様の研究
の連絡、会員のコラムニティをモチベーションにより
一層役立つて、村研も全体として又盛りりよ
りりんさを誇りたいと感ふることあります。
すでに前項として範囲外とは存じますし、ま
たかとお想いになるか七回余りますが、こゝ
に再度題葉上から讀むかとびて、村研發展の
為の研究題目、その意味を斯もいたいと感します。

では編集部の記事が多くなることと、一つに日編集部の威厳を示し、一つに財金の弊のなさを示すものであります。残念なところから、いづれの理由によるかは知らず、「通じたる」は現在その状態に亘り、と、八、九月とも編集部が顔を出し、遂に本九月は二箇になってしまった、起事のない所編集部は存続しません。何卒御多忙中とは存じますがふるうて記事をおさせ下さるようお願い致します。

本研究会が生まれてからこのす、いまだ二
つとして落選の研究会がもたらしたといふこと
を知りませんでしたが、今回東大、東京教育
大学を中心として研究会がはじめられました。
研究会をもつていうことが「じれ景」困難で
あり、研究会のメムバーにとつて面倒になら
うかりかゝまでもあります。しかし、然しこ
うした研究サークルの一粒一粒があつまつて
やがて大きな村研の成果がるおれでてくるも
のと思ひます。活潑な研究会の活動は犯約に
もうたばれておりまます。この意感超越ですか
編集部より、提案させていただきます。

撮影後は四月十六日(金)午後五時半ほどを会館にておひで会員の打合せ集会を開催たいと存じます。この集会におきまして、会員の方々により、新年度の村研についての在り方の大綱を決定し、会をするめたいと存じますので、御都合つき次第開同するつて御参加下さるようお願いし、提案致します。以上

（第4回）四月十六日（金）午後五時半より東大赤門側洋士会館第一号室において、会員の打合せ集会を開催します。本年度の指標、出版、研究策定会、さらに研究通信の打ち方にについて話し合いたいと思います。御都合のつく会員全部の御登場と、活潑な討論とを期待してやみません。